

県立三好病院



写真提供：三好市観光協会主催『千年のかくれんぼフォトコンテスト』

生き活き講座

病院職員が医療や健康の知識を地域へお届け

DRASH テント展張訓練

DRASH テントを組み立ててみました

オープンホスピタル

中学生のみなさんが三好病院の職場を体験

New Face!!



職員紹介

… 板谷 知美 さん …
いただにともみ

三好病院で一緒に働くことになった『言語聴覚士(ST)さん』
について緊急レポート！

～ 県立病院基本理念～

県民に支えられた病院として県民医療の最後の砦となる

〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ 815-2
TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910
HP <http://www.miyoshi-hosp.jp>

臨時看護師募集

随時募集しております。
詳しくはホームページをご覧ください。

(い き い き)
生き活き講座

平成28年7月から「地域に根ざした医療」の一環として、三好病院職員が**地域に出向いて**の「生き活き講座」を開催しています。「病気のことを詳しく知りたいけど、話を聞く機会がない」「病気を予防して住み慣れた場所で生活したい」等・・・地域の皆さまとの交流を図るとともに、医療や健康に対する意識や知識向上のお手伝いをさせていただきますと考えています。 **費用は無料です。**

対象者： 地域住民（三好市・三好郡）による団体・グループ自治会、婦人会、老人会など。 1グループ10名以上。
実施日時： 原則月曜日から金曜日（祝日・年末年始を除く）午前10時から午後4時頃まで。
実施場所： 申し込み担当者でご準備ください。
 ＊会場設営・司会進行等は申し込み者でお願いします。
講座内容： 講師は三好病院職員が行います。
 講師が講話し、その後、質疑応答や実技などを行います。
 1講座は全体で30分から60分程度を目安とします。



**生き活き
 講座テーマ**



番号	講演内容	講師
1	緊急速報！脳梗塞にならないで！	脳神経外科医師
2	これって認知症？ 認知症の症状が家族に出た時どうするか	脳神経外科医師
3	もしかしたら骨折？ 骨粗しょう症の治療について	整形外科医師
4	肺の病気について（肺がん）	呼吸器内科医師
5	緩和ケアってなに？	緩和ケア内科医師
6	緩和ケアの治療はどんなもの？	緩和ケア内科医師
7	なかなか聞けない女性の病気	産婦人科医師
8	ロコモ体操のススメ	理学療法士・作業療法士
9	ご家族の方へ いろいろな生活の介助の方法について	理学療法士・作業療法士
10	おなかの病気	消化器内科医師
11	心臓の病気	循環器内科医師

詳しくはホームページをご覧ください。【問い合わせ】医学教育センター 電話：0883-72-1131（代）



7月20日：佐野地区で脳神経外科の依田医師を講師として「**緊急速報！脳卒中にならないで！**」というテーマでお話をしました。はじめて地域に出向き講義をしました。皆さんは熱心に聞いてくださり、元気に地域で暮らしていきたいと話されました。



8月22日：白地地区で脳神経外科の住吉医師を講師として「**脳梗塞にならないで！**」というテーマでお話をしました。参加者からは「大変良かった」「日常生活に気をつけたい」「分かりやすい内容だった」などの意見がありました。



10月5日：白地地区で内科の中本医師を講師として「**おなかの病気**」というテーマで主に肝臓、膵臓についてお話をしました。「普段の生活で気をつけることは何ですか？」「食事はどうすれば良いですか？」など活発な質問がありました。

～DRASH テントを張る訓練を行いました～

8月17日(水)に当院北側駐車場でDRASH(ドラッシュ)テントを張る訓練を実施しました。DRASH テントとは、災害や大事故などが発生した際に速やかに現場に運び、急速に張ることができるテントのことで、災害現場の指揮所や救護所などに活用されています。急速にテントを張ることができるとはいえ、使用する者が実際に経験しておくことが重要と考え、今回は、徳島県が保有している3張のうち、1張をお借りしました。テントの大きさは縦5.3m×横4.66m、面積19.2㎡(長方形に台形をくっつけた感じの6角形)、重さは約150kgあります。訓練された大人4人でテントを張るのに要する時間は約15分とのことですが、今回は10名程度(内経験者2名…ただし2回目)で手順を確認しながら30分程度で張ることができました。三好病院では、災害発生時に即応できる体制を目指して様々な訓練をこれからも実施していきたいと考えています。



～言語聴覚士(ST)さんを紹介します～

始めまして、板谷知美です。皆さん、言語聴覚士を知っていますか？
言語聴覚士はコミュニケーション障害、嚥下障害の方々に対してリハビリテーションを提供する職種です。三好病院では理学療法士4人、作業療法士1人に加えて10月から言語聴覚士1人が加わり計6人へトリハビリスタッフが増えより幅広いリハビリが提供できるようになりました。言語聴覚療法は主にベッドサイドで行い、摂食・嚥下障害や失語症、構音障害が主な対象です。私は中学生の頃からリハビリに興味を持ち、県立広島大学へ進学し今年の3月に大学を卒業しました。4月から言語聴覚士として働き始めたばかりの新米ですが、実際に働く中で、食べることができなかつた患者さんが少しずつ食べることができるようになってきたときは嬉しく、私自身のやりがいにつながりました。これから多職種との連携を大切に、専門的なサポートを患者さんとご家族の方に行っていきたいと思えます。

実際に使っている道具です！
(標準失語症検査・絵カード)



第1回オープンホスピタル 参加してくれてありがとう！



コメディカル (co-medical) という言葉を知っていますか？コメディカルとは、医師・看護師以外の医療従事者（看護師を含めることもあるそう）という意味で使われる言葉です。病院といえば医師、看護師…あとは？と、ドラマでも漫画でも馴染みないコメディカルスタッフ。しかしながら、「協同」を指す「co-」がくっついているように、診察を行うにあたって、コメディカルスタッフの協力が必要不可欠なのです。いわゆる縁の下の力持ち的な存在、コメディカルの仕事をもっと知ってもらいたい！と意気込み、平成28年8月6日（土）、第1回オープンホスピタルをついに開催いたしました。



「病院ってどんな仕事があるの？」、「現場ってどんなかんじ？」将来の夢ふくらむ、中学生のみなさんが三好病院へ集結。多職種にわたるプレゼン、実地体験を経たみなさんからは、「いろいろな職業について知ることができた」、「将来の参考にしたい」との感想を頂

きました。職員一同、初めての企画だったのでドキドキでしたが、楽しんで頂けて何より。将来、この三好病院で一緒に働くことができるといいなと期待しています。



さて！ここで、コメディカル6部署へ、それぞれのこだわりをインタビュー！！

リハビリ：平行棒やバランスボールを使用しての各種体験時も生徒さんは熱心に聞いてくださりました。

放射：最新の放射線機器を用いて実験を行い診療放射線技師の仕事について理解を深めてもらいました。

検査：顕微鏡で血液を見てもらいました。体を構成するミクロの世界へ興味をもってもらえました☆

臨工：「臨床工学技士」という職を少しでも知ってもらえればと思いました♪

栄養：普段は目に見えない病院の栄養業務を管理栄養士1年目の新人が身近な言葉で伝えてみました。

薬局：まずは形からということで、調剤体験時には白衣を着ていただきました。それがまた大好評！

ちなみに、上部掲載写真は、三好病院の屋上、ヘリポートで撮影しています。職員ですら、ヘリポートへ入る機会はありません。そんな珍しい場所での撮影をOKしてくれたのはもちろん、我らが住友院長。晴れわたる空の下、青々と茂る山に囲まれ、煌めく吉野川がすぐそばを流れていく景色をバックにハイ・チーズ。眺めは最高。赤茶色のフロアに描かれた「H」の白い字が、目に突き刺さるほどまぶしかったです。職員にとっても大変貴重な体験でした。



実は、ここだけの話…**第2回の開催も来年計画しています！**

今回参加できなかったみんなも、もう1度参加してみたい！なんてみんなも、奮ってご参加ください。開催日時などについては、徳島県立三好病院のホームページでお知らせしますので確認してね。

<http://www.miyoshi-hosp.jp/>